



大小でこぼこのホルドのつかみ方、足のかけ方を習って垂直壁を登ります。



目指せてっぺん
7月31日 スプーキークライミング

『はじめてのボルダリング教室』が午前・午後に分かれて開催され、30人の若きクライマーたちが壁登りに挑戦しました。高さ約4メートル、垂直や手前に傾斜している壁をホールドという突起をつかんだりして登っていきます。何度もトライするうち、オーナーの西尾淳志さんのアドバイスで、終盤には自分なりの目標地点へ到達できて満足げな表情。小学2年生の妹と参加した酒井柚葉さん(小方小5)は、「前にも来たことあるけど、やっぱり楽しい。時間があつたらまた来たい」と次が待ち遠しい様子。また来たいという子どもたちに「自由に来たいよ」と明るく見送る西尾さん。「コロナのときと違い、距離が近くて和気あいあいとしていい。こういう機会を使って、ボルダリングに興味を持つきっかけになってくれれば」と語ります。

夏の スケッチブック 2023



SPECIAL 2



8月19日 スペイン通り・ふれあい通り
4年ぶりに開催した「土曜夜市」が、夕闇迫る通りに、商店街の人たちを中心に、ゲームや飲食が出店、多くの人でにぎわっていました。ステージの司会を務めるのは、「大好き大竹応援大使」のゴッホ向井さん。大竹駅前商店街の振興組合代表理事の中川安さんのあいさつで幕を開け、吹奏楽、ダンス、歌、太鼓と多彩なステージパフォーマンスが繰り広げられました。中川さんは「市民の皆さんと商店街が一緒になって催しができてうれしい。これからも元気な商店街でいたい」と活気あふれる通りの様子を感慨深げです。回転するのねらう射的で見事1等を当てた田村陸くん(大竹小2)は、ガッツポーズ。最後はカーブ観戦チケットが当たるじゃんけん大会で、夏の一夜を締めくくりました。



訪れた人で通りは埋め尽くされ、多彩なパフォーマンスに、観客の拍手が響きました。



世界一の工場に
8月5日 ダイセル・大竹港・アゼリアおおたけ

企業活動への理解を深めるため栄公民館と(株)ダイセルが協力して行った工場見学に、親子35人が参加しました。アゼリアおおたけでの固形入浴剤づくりの後、バスで東栄地区に移動。会社敷地内に設けられた『いのちの森』を見学します。30種類の樹木を植え、SDGsの理念のもと環境づくりに取り組んでいると説明を受け、岡田結さん(大竹小4)は「世界一の工場になれると思います」との感想。大竹港でのコンテナ積み下ろし作業やマツダスタジアム9個分もあるという工場敷地のプラント、火災事故に備えて配備された消防車を見学。再びアゼリアおおたけに戻り入浴剤を完成させます。徳丸秀人くん(小方小1)は「工場が見てみたかったので参加しました。入浴剤がシュワシュワとなるのが楽しかった。家でも作ってみたい」と、固形入浴剤を大事に持ち帰りました。



(左)プロの手ほどきを受け、カンナにチャレンジ。(下)一番早く出来上がった箸を見せてくれる赤木真佳さん。



のこぎり・カンナでマイ箸づくり
7月27日 総合市民会館

のこぎり、カンナなどの本格的な大工道具を使った『大工さん体験教室』の箸づくりに、9人の小学生が挑戦しました。工務店の(株)朋建の協力で、最初に道具の使い方の説明を受けてから取りかかります。広島県産の杉の棒をのこぎりで使いやすい長さにカット。カンナで先を細く削っていくと、だんだんと箸の形に。それをサンドペーパーでなめらかな手触りに仕上げます。最後は焼き印用のペンで、名前などを入れて完成です。マイ箸にSnowManのメンバーの名前を入れた赤木真佳さん(大竹小3)は、「道具を使うのは初めてだったけど、おじいさんやお父さんがカンナを使っているのを見ていたので自分でできた。削ったり磨いたりするのが楽しかった」と、お気に入りの箸を見せてくれました。

子どもも大人も「こども天国」
7月23日 玖波公民館
『ドキドキわくわく！楽しめる！こども天国in KUBA』に、約1300人が訪れました。国内外の珍しいおもちゃを収集した『ちびっ子おもちゃ百貨店』、オークションなどで遊びながらお金のことを学ぶ『ちびっ子お金博士』、1坪の家の骨組みを組み立てる『ちびっ子棟上げ体験』や、警察の鑑識で使う指紋採取の体験ブースなどが設けられました。ほかに、白バイやパトカー試乗、消防車写生大会、ソーラートレーンづくり、ロビーで子どもたちの演奏会と、多彩な催しを楽しんでいたようです。巨大な紙に自由に未来の姿を描くコーナーでは、子どもたちに交って空に架かる虹を描いた塩屋優佳さん(和木町)は3男1女のお母さん。「こんな大きな紙に自由に描くのは久しぶり。子どもたちより楽しんだかもしれません」と笑っていました。※消防車写生大会の結果は3ページに掲載しています。



(上)『世界とつながったお絵かき水族館』は、自分たちで描いた海の生き物が、巨大な画面を回遊します。(右)すべり台をすべり下りると、映し出されたフルーツが、さまざまな姿に育っていく体験コーナーに、子どもたちは夢中。



デジタルアートの遊園地
7月22日 ポートレース宮島
ポートレース宮島が、ファミリー層にポートレース場に親しんでもらおうと行った地域貢献事業『チームラボ 学ぶ！未来の遊園地』に、地域の小中学生を招待しました。オープンしたこの日の午後、招かれた玖波小学校の1年生から6年生96人が、デジタル技術を使ったアート空間を体験。イベントホール内の5つのブースに設けられたアトラクションに、時間が経つのも忘れるほど夢中でした。自分たちが自由な色で描いた魚やイカ、カメ、サメ、クラゲなどの海の生き物が、巨大画面を泳ぎ回る光景に大はしゃぎ。花模様のカメラを描いたので泳ぐ姿を見てうれしかった」と喜んでいました。あつという間の70分の体験時間。子どもたちは、遊び足りない様子でした。

(右)力を合わせて1坪の家を組み立てる「ちびっ子棟上げ体験」。(下)けん玉体験。けん先にうまくはまらなかったかな？(下左)ポンペを背負い消火銃を構えた姿はゴーストバスターズみたい。

